

キャリアタス就活
[career+]

2019卒 理系学生の就職活動（専攻分野別）

2018年10月

株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

調査概要

<調査概要>

2019年卒の理系学生の就職活動に関する調査データの中から主なものを抜粋し、専攻分野（機械・電気系／情報系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析しました。

調査対象 : 2019年3月に卒業予定の大学生（理系は大学院修士課程含む）

サンプリング : キャリタス就活2019 学生モニター

調査方法 : インターネット調査法

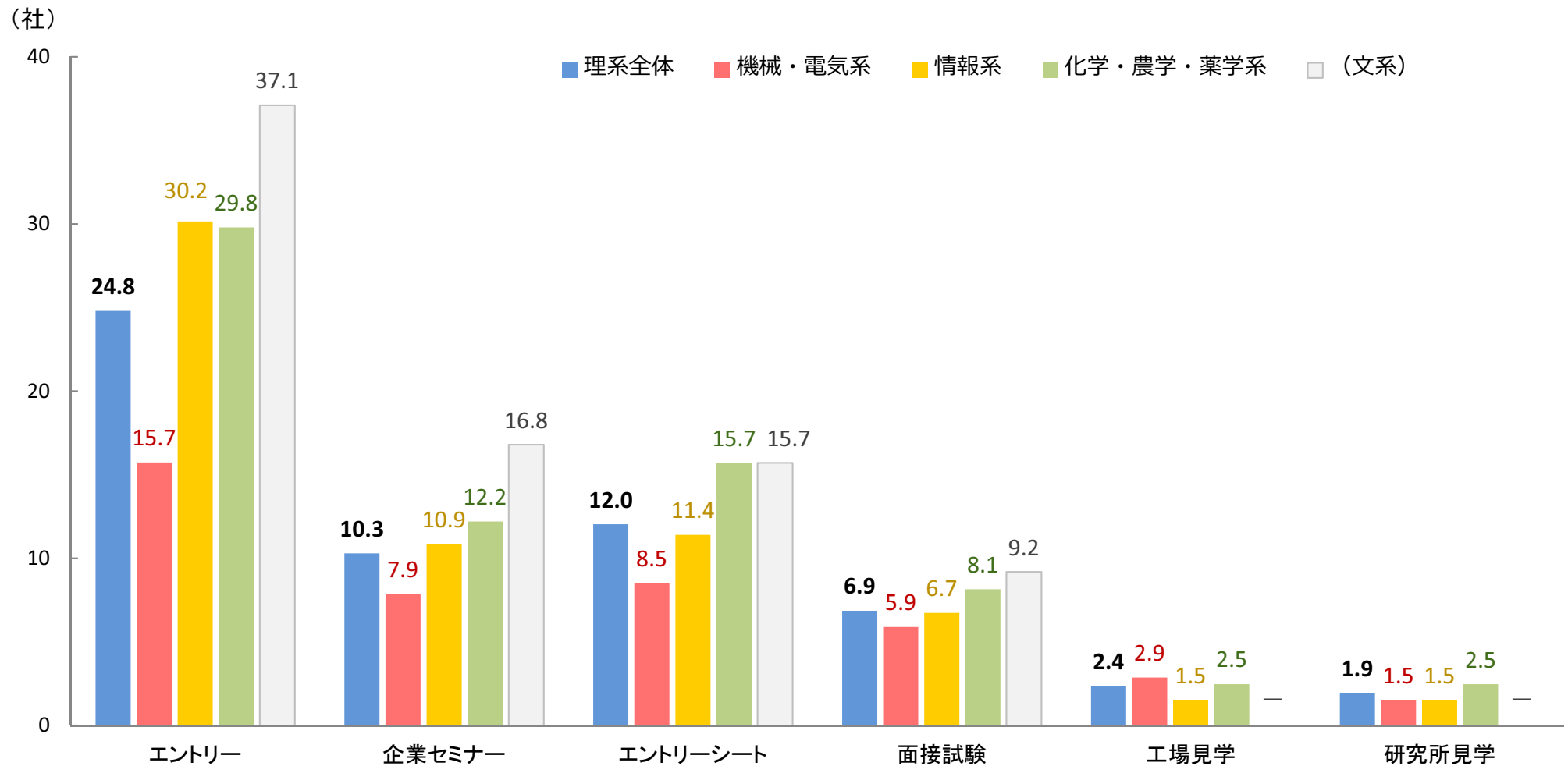
	第4回調査	第5回調査	第6回調査	第7回調査	第8回調査	第9回調査	インターンシップ 特別調査
調査時期	2018年3月	2018年4月	2018年5月	2018年6月	2018年7月	2018年8月	2018年3月
回答者数	1,258人	1,140人	1,197人	1,145人	1,147人	1,033人	686人
理系全体	441人	442人	462人	454人	466人	420人	252人
機械・電気系	95人	91人	92人	93人	99人	85人	53人
情報系	59人	65人	65人	63人	66人	66人	39人
化学・農学・薬学系	118人	132人	136人	135人	134人	122人	70人

<目次>

1. 就職活動量	P3	7. 就職決定業界	P9
2. 内定率の推移	P4	8. 就職決定企業への応募ルート、専攻分野との関連	P10
3. インターンシップ参加状況①	P5	9. 就職決定企業を知ったきっかけ	P11
4. インターンシップ参加状況②	P6	10. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング	P12
5. 業界研究を始めた時期	P7	11. 就職決定企業に決めた理由	P13
6. 業界研究に有益な情報源	P8	12. 就職決定企業のインターンシップ参加状況	P14

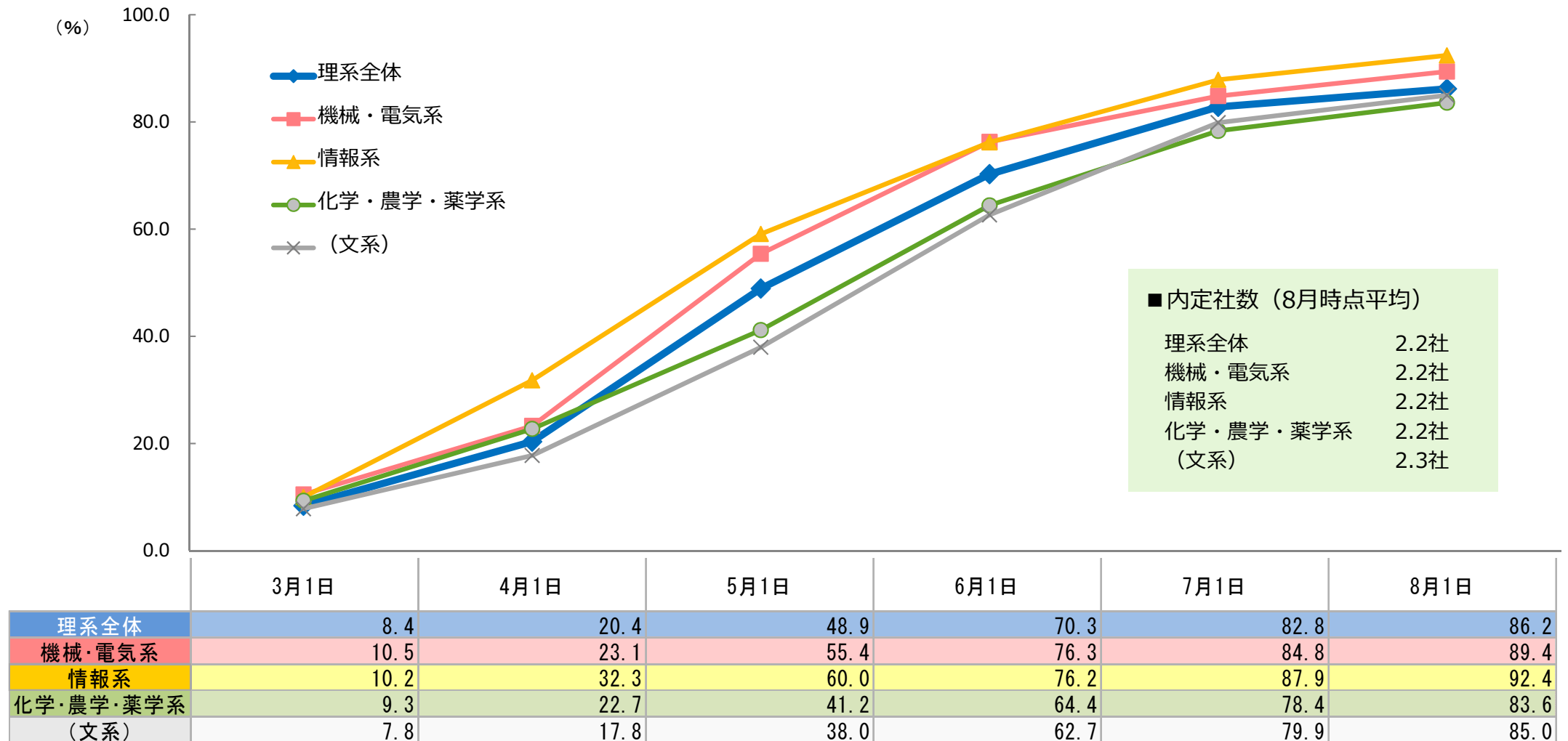
1. 就職活動量(社数／8月時点)

- 文系と比較すると、理系はすべての活動において文系を下回り、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 理系の中でも、機械・電気系は社数が少なく、化学・農学・薬学系は比較的多いという特徴が見られる。
- ただし、エントリー社数は情報系が最多(30.2社)で、機械・電気系(15.7社)の約2倍に上る。



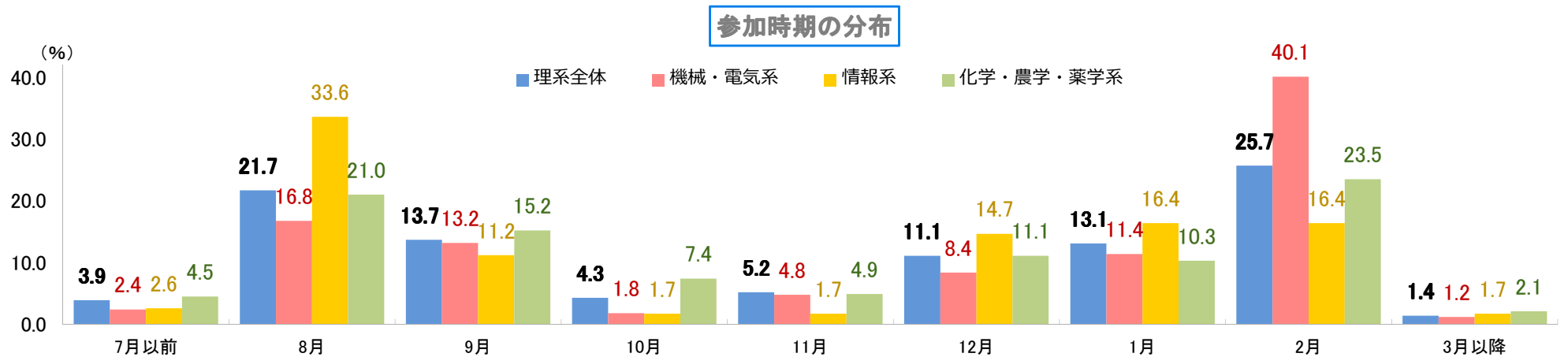
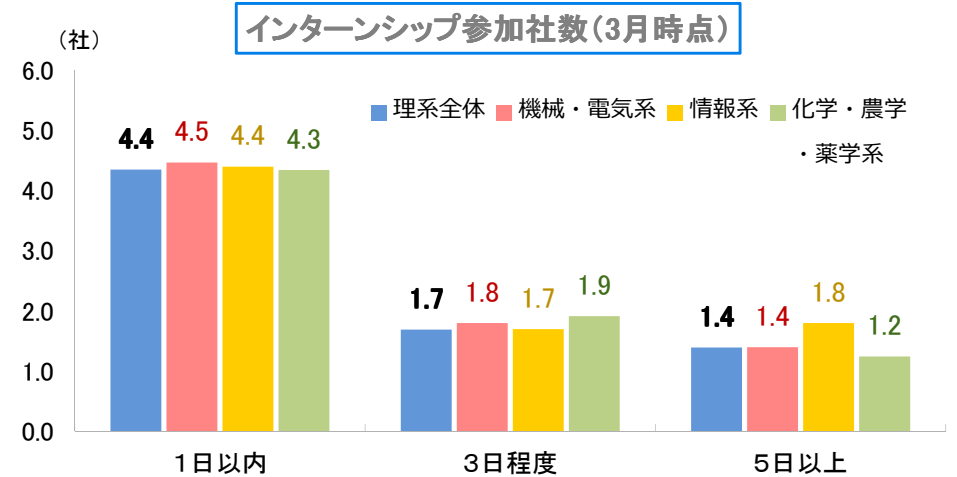
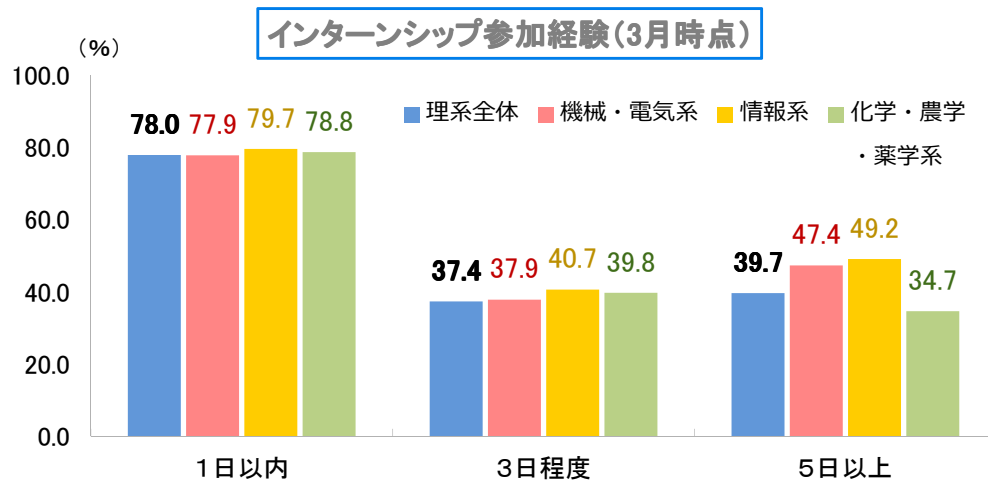
2. 内定率の推移

- 理系は文系に比べ内定獲得のペースが速く、6月時点で7割を超えていた(70.3%)。
- 理系の中でも、情報系は早期の内定獲得が目立つ。4月1日時点で3割を超え、5月1日には6割に達した(60.0%)。



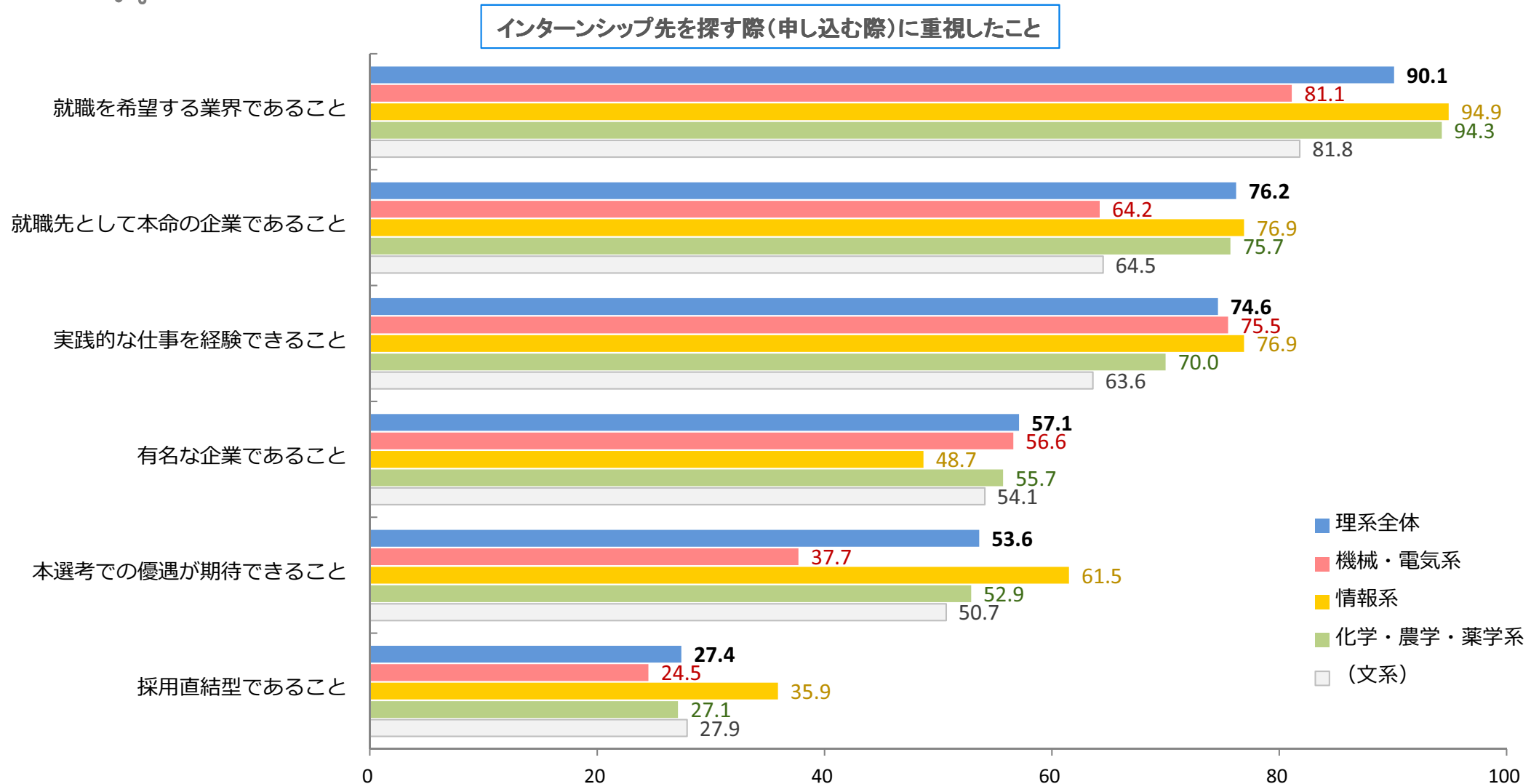
3. インターンシップ参加状況①

- インターンシップ参加率や、参加社数に、専攻による大きな差は見られない。
- 1日以内のプログラムは、いずれの属性も約8割が参加経験を持つ。情報系は5日以上への参加が他の属性よりやや高い(49.2%)。
- 機械・電気系は2月が参加のピークだが(40.1%)、情報系は8月にピークを迎えており(33.6%)、早い時期の参加割合が高いのが特徴的。



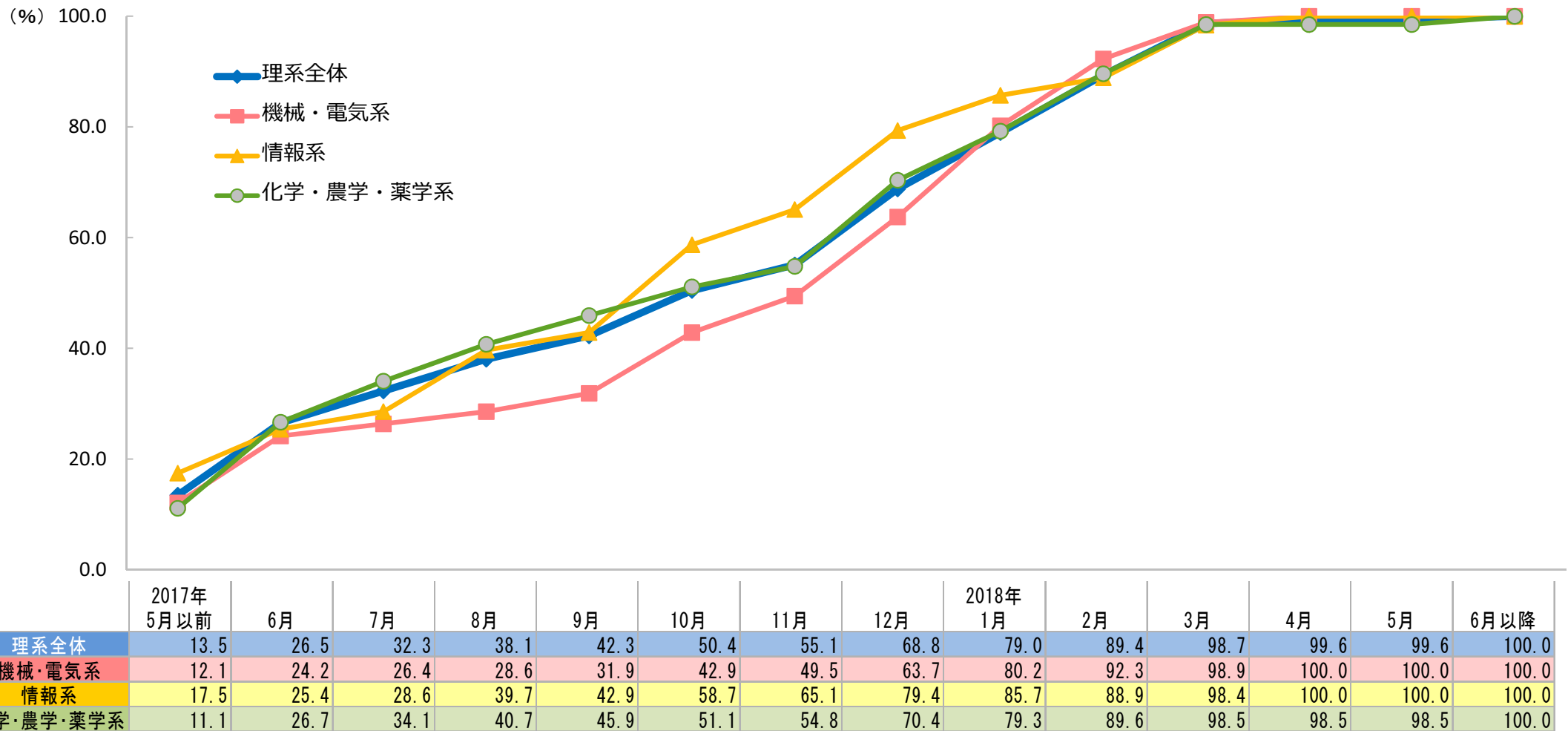
4. インターンシップ参加状況②

- 探す際に重視した点は、いずれの属性も「就職を希望する業界である」が最多で、特に情報系と化学・農学・薬学系で9割を超える。
- 情報系は「本選考での優遇が期待できる」や「採用直結である」が他の属性より高いなど、就職を意識してインターン先を選ぶ傾向が強い。



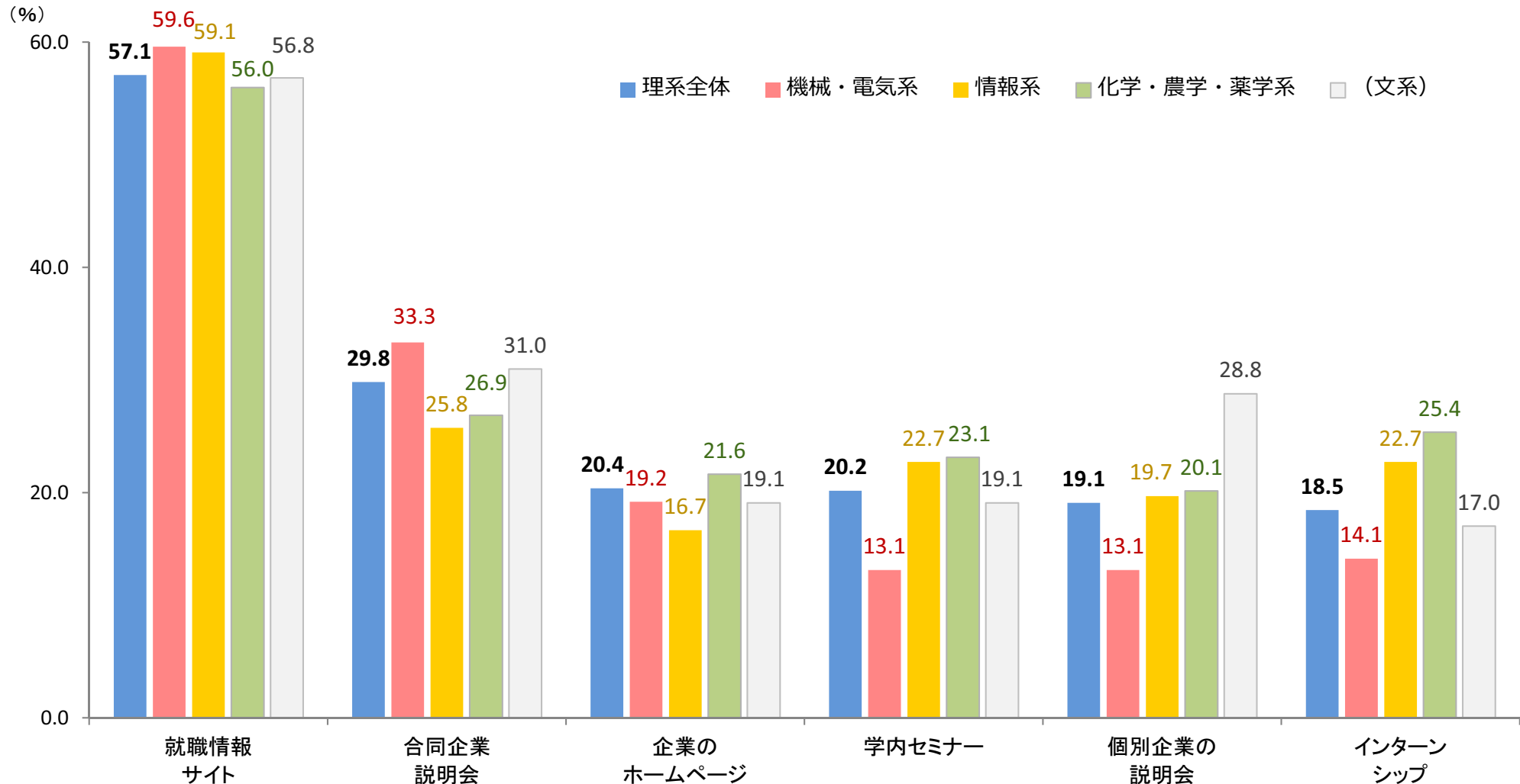
5. 業界研究を始めた時期

- 機械・電気系は業界研究の取り掛かり時期が比較的遅く、インターンシップ参加時期が他の属性より遅いこととも一致する。
- 情報系は10月～12月にかけて、他の属性を約10ポイントリード。1月には85%を超える。



6. 業界研究に有益な情報源

- いずれの属性も「就職情報サイト」が5割を超えて最多。特に機械・電気系は6割近い(59.6%)。
- 機械・電気系は「合同企業説明会」が他の専攻より高く(33.3%)、化学・農学・薬学系においては「インターンシップ」が高い(25.4%)。
- 文系では「個別企業の説明会」のポイントが高く(28.8%)、実際の参加社数の多さと比例していると考えられる。(3ページ参照)



7. 就職決定業界

- 機械・電気系学生の決定業界は、1位「電子・電機」(21.1%)、2位「自動車・輸送用機器」(18.3%)。
- 情報系学生は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」に集中しており、4割を超えている(44.2%)。
- 化学・農学・薬学系学生の決定業界は、1位「素材・化学」(14.6%)、2位「医薬品・医療関連・化粧品」(13.5%)。
- いずれも専攻分野との関連の強さがうかがえる。

(%)

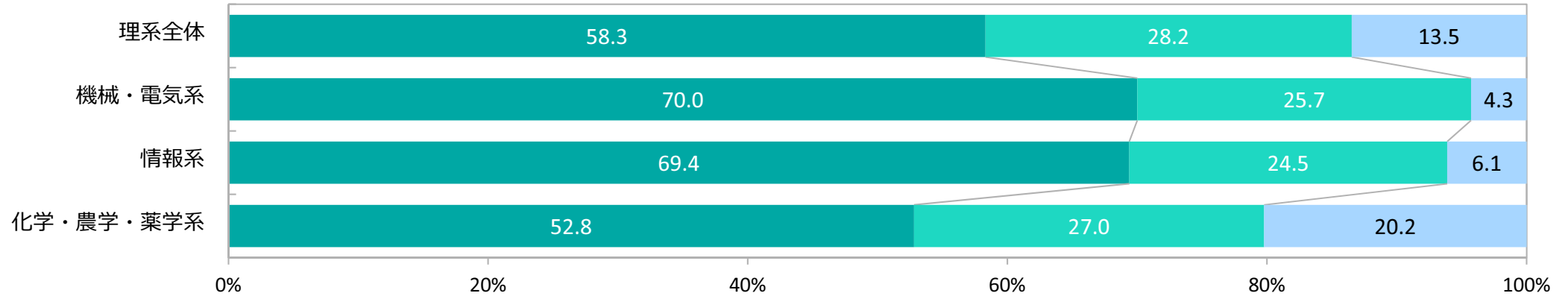
理系全体		機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.7	電子・電機 21.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 44.2	素材・化学 14.6
2	電子・電機 9.8	自動車・輸送用機器 18.3	通信関連 15.4	医薬品・医療関連・化粧品 13.5
3	自動車・輸送用機器 9.2	機械・プラントエンジニアリング 9.9	建設・住宅・不動産 5.8	調査・コンサルタント 7.9
4	建設・住宅・不動産 8.3	運輸・倉庫 8.5	情報・インターネットサービス 5.8	水産・食品 7.9
5	素材・化学 5.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 7.0	精密機器・医療用機器 3.8	電子・電機 6.7
	医薬品・医療関連・化粧品 5.5	建設・住宅・不動産 5.6	マスコミ 3.8	自動車・輸送用機器 6.7
7	水産・食品 4.9	精密機器・医療用機器 4.2	エネルギー 3.8	官公庁・団体 4.5

8. 就職決定企業への応募ルート、専攻分野との関連

- 理系学生の約6割(58.3%)が、専攻を活かした理系就職。機械・電気系と情報系は約7割に上る(70.0%、69.4%)。
- 機械・電気系は「学校・教授推薦」での就職決定者も比較的多く、4割近く上る(37.7%)。

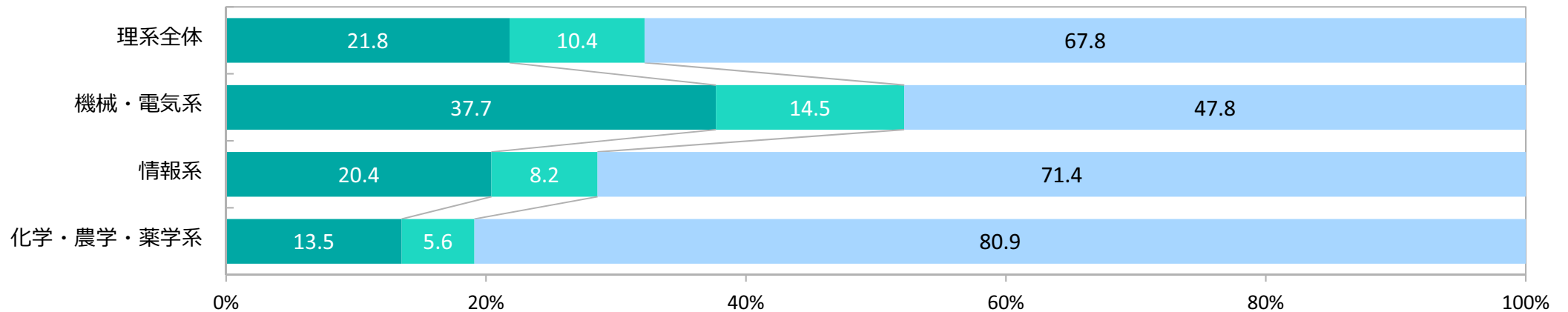
専攻との関係

■ 専攻を活かした理系就職 ■ 専攻とは関係のない理系就職 ■ 文系就職



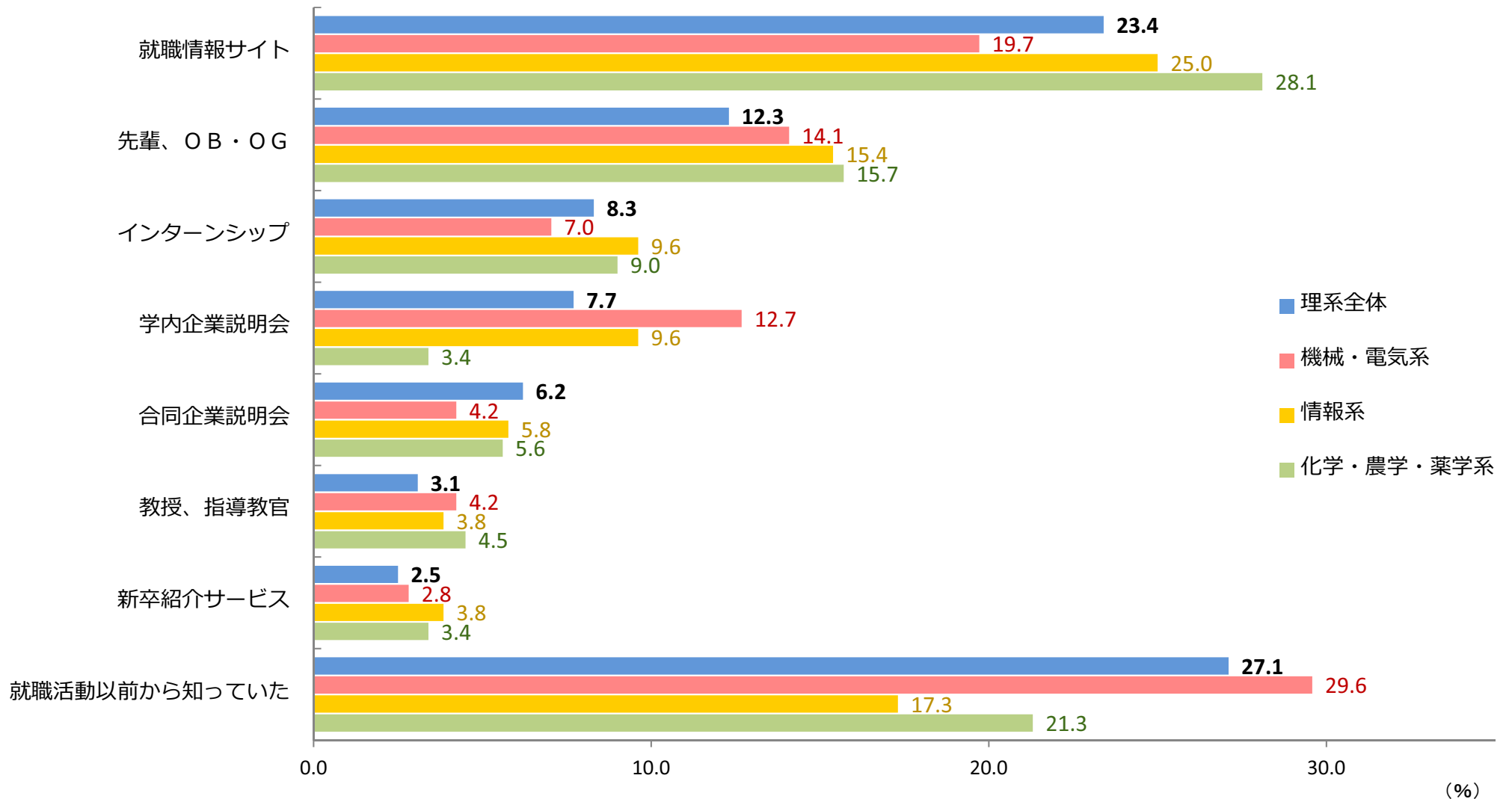
応募ルート

■ 学校・教授推薦 ■ 後付推薦 ■ 完全な自由応募



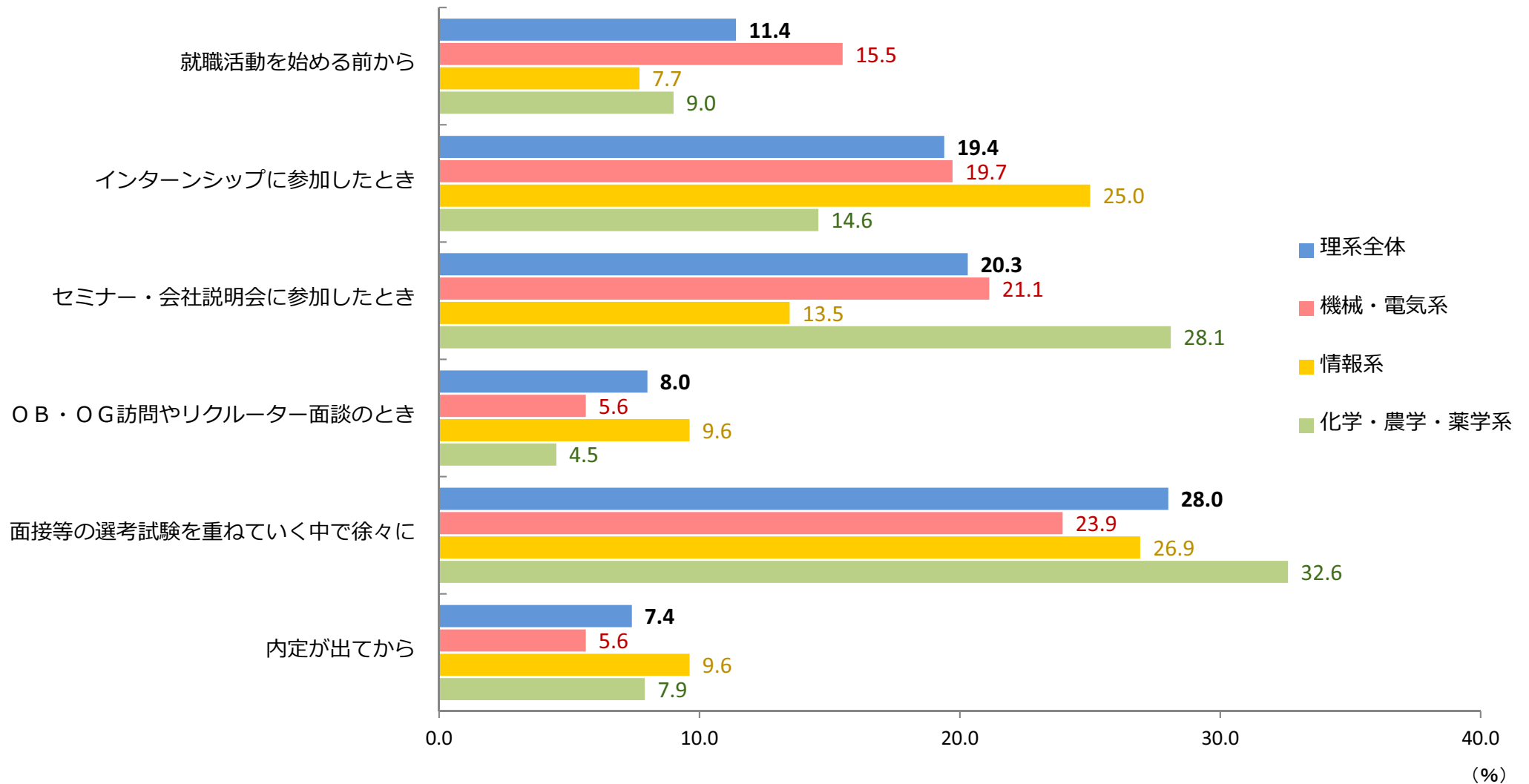
9. 就職決定企業を知ったきっかけ

- 就職活動開始以降に知った場合、いずれの属性も「就職情報サイト」が圧倒的に多い。機械・電気系は「学内企業説明会」も比較的多い。
- 「就職活動以前から知っていた」の割合が高いのは機械・電気系で(29.6%)、逆に情報系は低い(17.3%)



10. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング

- 情報系は、「インターンシップに参加したとき」(25.0%)が他の専攻より高いのが特徴的。
- 化学・農学・薬学系は、「選考を重ねていく中で徐々に」(32.6%)や「セミナー・会社説明会に参加したとき」(28.1%)が高い。



11. 就職決定企業に決めた理由

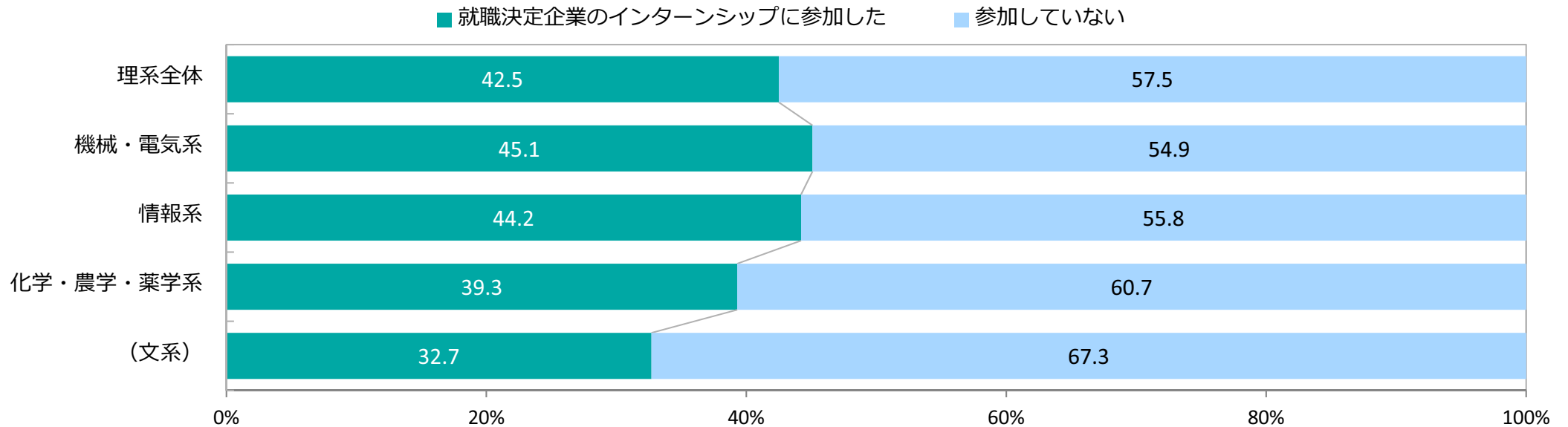
- 上位10位に出てくる項目に、専攻での差はほとんど見られない。
- 機械・電気系は「有名企業である」が他の専攻より上位に来ているが、「以前から知っていた」企業への就職比率が高いこととも一致する。
- 情報系は「仕事内容が魅力的」の順位が高い。インターンに参加して就職したいと思った人が多かったことと関連がありそうだ。
- 化学・農学・薬学系は「希望の勤務地で働ける」が上位だが、これは女子学生が比較的多いことも影響していると考えられる。

※5つまで選択 (％)

	理系全体							
	機械・電気系		情報系		化学・農学・薬学系			
1	将来性がある	35.4	将来性がある	38.0	社会貢献度が高い	30.8	将来性がある	40.4
2	社会貢献度が高い	30.8	有名企業である	32.4	将来性がある	28.8	希望の勤務地で働ける	28.1
3	給与・待遇が良い	26.5	給与・待遇が良い	31.0	仕事内容が魅力的	26.9	大企業である	27.0
4	大企業である	26.2	社会貢献度が高い	26.8	福利厚生が充実している	26.9	社会貢献度が高い	24.7
5	有名企業である	23.7	大企業である	26.8	給与・待遇が良い	25.0	業界順位が高い	24.7
6	仕事内容が魅力的	23.7	仕事内容が魅力的	26.8	大企業である	23.1	製品・サービスの質が高い	23.6
7	業界順位が高い	23.4	業界順位が高い	23.9	世の中に影響力が大きい	23.1	給与・待遇が良い	20.2
8	福利厚生が充実している	21.8	製品・サービスの質が高い	23.9	有名企業である	21.2	仕事内容が魅力的	20.2
9	希望の勤務地で働ける	21.2	世の中に影響力が大きい	22.5	職場の雰囲気が良い	21.2	職場の雰囲気が良い	20.2
10	職場の雰囲気が良い	20.9	福利厚生が充実している	19.7	希望の勤務地で働ける	21.2	福利厚生が充実している	19.1

12. 就職決定企業のインターンシップ参加状況

- 理系は文系に比べ、就職決定企業のインターンシップに参加していた割合が高め。中でも、機械・電気系が高い(45.1%)。
- 情報系は「5日以上プログラム」への参加割合が高いのが特徴的(19.2%)。



就職先決定企業のインターンシップ参加日数 (複数回答)

	理系全体				(文系)	(%)
	理系全体	機械・電気系	情報系	化学・農学・薬学系		
1日以内のプログラムに参加	25.2	29.6	26.9	25.8	20.7	
2~4日程度のプログラムに参加	7.7	5.6	5.8	10.1	11.4	
5日以上プログラムに参加	12.3	9.9	19.2	5.6	4.6	
就職決定企業のインターンシップに参加していない	57.5	54.9	55.8	60.7	67.3	